

神のエコノミーの実際の中で生きる人		
MSG1	神のエコノミーの中心は	神が人に与えた霊です
MSG2	神のエコノミーの源は	神の永遠の定められた御旨です
MSG3	神のエコノミーの模範は	恵みの中で力づけられ忠信な人となることです
MSG4	神のエコノミーの内容は	キリストのパーソンと働きです
MSG5— MSG8	神のエコノミーの中を生きる人が持つべき訓練	
	キリストのからだとしての召会を有機的に建造するために、 (M5)神の言葉を呼吸し、装備された神の人となり (M6)尊いことに持ちいられる器と成り主を呼び求め、主を追い求め (M7)命の恵みの健康な言葉を語り、 (M8)わたしたちの務めを十分に果たす ことの上で訓練される	

アウトラインのキーワードとみ言葉	
唯一の務め	使徒1:17 ユダはわたしたちの間に数えられ、 この務め の分を割り当てられていました。 使徒 1:25 ユダが… この務め と使徒職の地位を、継がせられるのでしょうか Ⅱコリ 4:1 こういうわけで、わたしたちはあわれみを得て、 この務め を受けた(ministry)
個人的な務め	Ⅱテモテ 4:5 しかし、あなたはすべての事柄に冷静であり… あなたの務めを十分に果たしなさい コロ 4:17 アルキポに、主にあって あなたが受けた務め を心にとめ、それを果たすように… Ⅰコリ 12:5 務め(ministries) には区別がありますが、同じ主です。
務めの目的	エペソ 4:12 それは、 聖徒たちを成就して、 その務めの働きへと 、キリストのからだの建造へと 至らせるためであり、

アウトラインがどのように構成されている			
主題:「あなたの務めを十分に果たしなさい」——Ⅱテモテ 4:5 より			
I	ただ一つの務め 団体的な務め からだの務め 新契約の務め	A	この務めは、イエスの証しを担う務めです。 この務めは、からだの原則にある団体的な務めです。
		B	この務めは、新約の奉仕者たちの団体的な務めです。 それは神の新約エコノミーを完成するための新契約の務めです
		C-D	新約の務めは、キリストのからだを建造する唯一の務めを果たします *わたしたちは新しい契約の奉仕者として資格づけられました *主はわたしたちを遣わし、その務めに任命してくださいました
II	個人的な務め 肢体の務め	A-D	パウロ、アルキポ、テモテの個人的な務め *使徒 20-24 章は主から受けた個人的務めを言っています *パウロの個人的な務めを言っています*アルキポは務めを持っていた *テモテは自分の務めを十分に果たした
		E-F	一つのからだの務めのため、あらゆる肢体に各自の務めがあります *肢体の各自の務め *多くの人が同じ事を語る
III	務めの働き 務めの目的	A	賜物がある者が聖徒を成就します、目的はその務めの働きです
		B-D	務めの働きの目的は、キリストのからだの建造のためです *賜物がある多くの人にはただ一つの務めを持っている *務めの働きの目的 *務めに分を持つ祝福

まとめ	
いかにわたしたちの務めを十分に果たすか	
唯一つの務め、奉仕はキリストを供給し、からだの建造するためです	
務めの構成とは、人を造り変える霊と三一の神の命です	
務めの働きとは、人を成就する者と成就される者との働きです	
務めの目的とは、すべての人が機能してキリストのからだを建造することです	

「あなたの務めを十分に果たしなさい」

聖書：使徒 1:17, 25. II テモテ 4:5 後. I テモテ 1:12.
II コリント 4:1. エペソ 4:11-12. コロサイ 4:17

ただ一つの務めだけがあるべきです

I. 主の目には、ただ一つの務めがあるだけです——II コリント 4:1. エペソ 4:12:

***それはイエスの証しを担う務めです、**

A. ペテロはユダの代わりが必要であることについて語って、「ユダはわたしたちの間に数えられ、この務めの分を割り当てられていました」と言いました——使徒 1:17:

1. 使徒たちは、主が「この務めと使徒職の地位を、継がせられるの」にどちらを選んだのかをはっきりと示してくださるようにと祈りました——24-25 節。
2. 17 節と 25 節で用いられているように、「務め」という言葉は、イエスの証しを担う務めのことを言っています——8 節：
 - a. 使徒は十二人いましたが、彼らの務めは唯一無二でした。「この務め」とは、キリストのからだの原則にある一つの団体的な務めです。
 - b. すべての使徒は同じ務めを遂行し、肉体と成り復活し昇天した、すべてのもの主であるイエス・キリストの唯一の証しを担いました。

***多くの奉仕者には唯一の団体的な務めがあるべきです、**

B. II コリント第 4 章 1 節でパウロは言います、「わたしたちはあわれみを得て、この務めを受けたのですから、落胆しません」:

1. コリント人への第二の手紙における務めは、新約の奉仕者たちの団体的な務めです：
 - a. すべての奉仕者には、その務めにおいて彼ら自身の分があります。
 - b. この団体的な務めにおいて、パウロにはパウロの分があり、ペテロにはペテロの分があり、テモテにはテモテの分がありました——II テモテ 4:5 後。
 - c. わたしたちはこれらすべての分を共に加えるとき、新約の務めである「この務め」を持ちます。
2. 多くの奉仕者には一つの務め、すなわち神の新約エコノミーを完成するための新契約の務めがあります。
3. すべての使徒たちの働きは、この唯一の務めを遂行すべきであり、キリストを人々に供給して、キリストのからだを建造すべきです。

C-D 新約の務めは、キリストのからだを建造する唯一の務めを果たします

***わたしたちは新しい契約の奉仕者として資格づけられました**

C. II コリント第 3 章 6 節は、神はわたしたちを「新しい契約の奉仕者として、資格づけて」くださったと告げています:

1. その霊、すなわち手順を経た三一の神の究極的表現は、神聖な命を、さらには神ご自身を信者たちと使徒たちの中へと分け与えて、彼らを新しい契約の奉仕者とします。
2. ですから、彼らの務めは、命を与える霊によって、命である三一の神で構成されています——I コリント 15:45 後半。

***主はわたしたちを遣わし、その務めに任命してくださいました**

D. 「わたしは、わたしを力づける方、わたしたちの主キリスト・イエスに感謝しています。この方はわたしを忠信な者と認めて、その務めに任命してくださいました」——I テモテ 1:12:

1. この節でパウロは、「この方はわたしをわたしの務めに任命してくださいました」とは言っていません。
2. パウロは、主が彼を唯一無二の団体的な新約の務めに任命したと言っています。
3. わたしたちはみな、主が彼のあわれみと恵みによって、キリストのからだを建造する団体的な務めにわたしたちを任命してくださいましたゆえに、主を賛美すべきです——エペソ 4:12, 16。

個人的な務め、肢体の務め

II. 前に述べたいいくつかの節は、新約における務めが団体的なものであることを啓示していますが、他のいくつかの節は、務めが個人的なものでもあることを示しています：

A-D :パウロ、アルキポ、テモテの個人的な務め

*使徒 20 章から 24 章は主から受けた務め、個人的務めを言っています

A. 使徒第 20 章 24 節は、パウロの個人的な務めを指しています。なぜならパウロは、彼が主から受けた務めについて語っているからです。この節の務めは個人的な務めです：

1. パウロの務めは彼の存在でした。彼とキリストは一となっていました——エペソ 3:17 前半. I コリント 6:17. II コリント 3:8-9, 4:1.
2. 彼が宣べ伝えたものは、彼が何であるかでした。彼は彼の存在そのものを他の人たちに供給しました。
3. パウロはキリストと一であり、キリストで構成されていました。こういうわけで、彼の務めは、彼の存在の中へと構成されていたキリストの務めでした。

*使徒第 21 : 19 は、パウロの個人的な務めを言っています

B. 使徒第 21 章 19 節は明確にはっきりと、パウロの個人的な務めに言及しています。「パウロは……神が異邦人の間で、彼の務めを通して行なわれた事柄を一つ一つ述べた」。

*アルキポの務め

C. コロサイ第 4 章 17 節は言います、「主にあってあなたが受けた務めを心にとめ、それを果たすようにと言ってください」。アルキポは務め (a ministry) を持っていました。同じ原則で、わたしたちはみな務め (a ministry) を持っています。

*テモテは自分の務めを十分に果たしました

D. II テモテ第 4 章 5 節でパウロはテモテに、自分の務めを十分に果たすようにと命じています：

1. テモテが自分の務めを十分に果たすことは、テモテの務めの度量を完全に満たすことでした。
2. この務めは言葉の務めを意味し、キリストのあらゆる豊富を罪人にも信者にも供給して (エペソ 3:8)、キリストのからだを建造することです (4:11-12)。
3. このような務めは、II テモテ第 4 章 3 節と 4 節で預言されているような、衰退する傾向に立ち向かうために必要不可欠です。

E-F:一つのからだの務めのため、あらゆる肢体に各自の務めがあります

*あらゆる肢体にはそれ自身の務めがあります

E. 新約の務めはキリストのからだの奉仕であるので、またからだには多くの肢体があるので、あらゆる肢体にはそれ自身の務めがあります——エペソ 4:11-12：

1. 肢体の面から言えば、多くの務めがあります。しかしながら、からだ全体の面から言えば、ただ一つの務めがあるだけです——I テモテ 1:12。
2. わたしたちの個人的な務めは、団体的な務めから 分離しているべきではありません。
3. からだには団体的な務めがあり、からだのすべての肢体には個々の務めがあります。
4. すでに見てきたように、からだの肢体のすべての務めを共に加えると、団体的な務めに等しいのです——エペソ 4:12。

*多くの人が同じ事を語る必要があるべきです

F. さまざまな角度からの同じ語りかけがあるべきです——I コリント 1:10：

1. 多くの人が起こされて、さまざまな角度から同じ事を語る必要があります。
2. わたしたちは、主がさらに多くの人を起こして、この唯一の務めを遂行させると信じます——II コリント 4:1。
3. わたしたちはみなこの務めに分があります。これはさまざまな機能、さまざまな角度、さまざまな面を持つ一つの務めです——エペソ 4:11-12。
4. わたしたちは人に従ったり、だれかを模倣したりしているわけではありません。しかしながら、わたしたちは同じ事を供給しています。

務めの建造する働き、務めの目的

Ⅲ. 「それは、聖徒たちを成就して、その務めの働きへと、キリストのからだの建造へと至らせるためであり」——エペソ 4:12 :

* 賜物がある者が聖徒を成就します。その目的はその務めの働きです。

A. 使徒、預言者、伝道者、牧する者また教える者は（11 節）、12 節で述べられているように、聖徒たちを成就して、その務めの働きへと至らせるためです。

B-D: 務めの働きの目的は、キリストのからだの建造のためです

* 賜物のある多くの人、ただ一つの務めを持っています

B. 11 節の賜物のある多くの人、ただ一つの務めを持っています。それは、キリストを供給して、キリストのからだを建造することです。これは、新約エコノミーにおける唯一の務めです——Ⅱコリント 4:1, I テモテ 1:12。

* 務めの働きの目的——キリストのからだの建造

C. 聖徒たちを成就することは、その務めの働きへと至らせ、その務めの働きは、キリストのからだの建造へと至らせます——エペソ 4:12, 16。

* この務めに分があるとは、わたしたちは何と祝福されていることでしょうか！

D. 「これが主の回復であり、これがわたしたちの委託であり、これがわたしたちの負担であり、これがわたしたちの務めです。この務めに分があるとは、わたしたちは何と祝福されていることでしょうか！」——ウイトネス・リー全集、1978 年、第 3 巻（下）、「真理メッセージ」、第 4 編。